Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-22

「特別の教科 道徳」の教育目標と公開授業の紹介

中川, 雅道

(Citation)
研究紀要 : 神戸大学附属中等 論集,5(別冊 : 授業実践報告集):87-98

(Issue Date)
2021-03-31

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

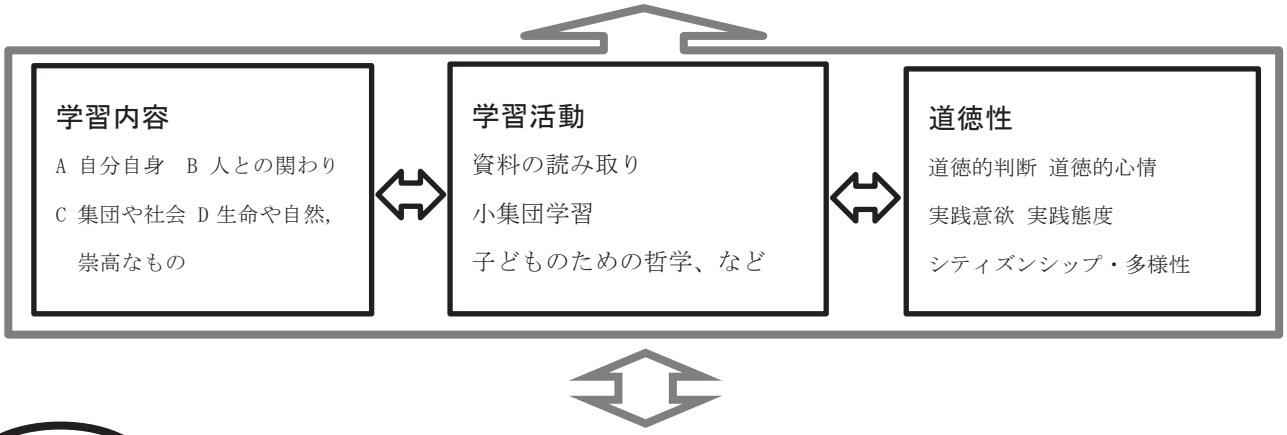
(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81012751

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012751

1　「特別の教科　道徳」の教育目標

育てたい生徒像

①物事を多面的・多角的に考え，善・悪の判断ができる生徒
②様々な問題に対して，道義的責任を持って行動することができる生徒
③道徳的価値の理解を基に，様々な考え方，捉え方があることを受け容れ，他者とよりよく生きようとする生徒



評価

年間を通して，ワークシートを見とることで学習のプロセスを評価する
年間で学習したワークシートを確認し，総じて評価文言を判断する
評価する作業を通して子どもたちについて様々な発見があるようにする

2　授業研究会での提案・研究協議のテーマ

1　現在の内容項目は適切であるか？
2　哲学的思考・シティズンシップ教育は道徳性を育むか？
3　求められる教員教育とは？
4　今、求められている教科書とはどんなものか？

「学校」という組織そのものが道徳性を育むものになっているか

《これまでの実践》
- 異なった手法による道徳授業の実践
- p4cで何を学べるのかの探究

3　公開授業の紹介

子どものための哲学 philosophy for children の哲学対話

2年【特別の教科　道徳】
中川　雅道　教諭

【勤労：人は何のために働くのだろうか？】

日本学術会議の提言で示されている「子どものための哲学 philosophy for children」による哲学対話を実践します。

「特別の教科　道徳」　目標

		目標	・物事を多面的・多角的に考え，善・悪の判断ができる生徒 ・様々な問題に対して，道義的責任を持って行動することができる生徒 ・道徳的価値の理解を基に，様々な考え方，捉え方があることを受け容れ，他者とよりよく生きようとする生徒				
	学年	科目・分野等	A　基礎力（道具や身体を使う） 知識・理解 / 技能 知識・技能		B　思考力（深く考える） 思考・判断・表現		C　実践力（未来を創る） 関心・意欲・態度 主体的に学習に取り組む態度
			Ⅰ 知識・理解	Ⅱ 技能（見つける力）（調べる力）	Ⅲ 論理的・批判的・創造的思考（まとめる力）	考える力	Ⅳ 自立・協同・創造の力（発表する力）
基礎期	1年 2年	道徳 各教科 総合的な学習の時間 特別活動 など	道徳的価値の理解 A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること	周りの人たちの話をしっかり聞き，自分の意見を述べることができる。	周りの人たちの意見を意識しながら自分の立場を明確にすることができる。	問いに対して答える姿勢を持つことができる。	道徳性（判断・心情・意欲・態度） 道徳的な視点で自分の行いを見つめ，行動することができる。
充実期	3年	道徳 各教科 総合的な学習の時間 特別活動 など		周りの人たちの話を踏まえながら自分の意見を述べたり，議論をしたりすることができる。	周りの人たちの意見をよく聞いた上で，様々な考え方，捉え方を受け容れたり，反論したりすることができる。	問い返しを繰り返すことで，考えを深めることができる。	倫理性（判断・心情・意欲・態度） 反省的な視点で自分の行いを見つめ，行動することができる。
充実期	4年	道徳 各教科 総合的な学習の時間 特別活動 など **現代社会** **ＥＳＤ**	各教科で登場する道徳的諸価値	基礎期，充実期の学習を様々な場面に活用することができる。	基礎期，充実期の学習を様々な場面に活用することができる。	基礎期，充実期の学習を様々な場面に活用することができる。	市民性・人間性（判断・心情・意欲・態度） 社会の中で他者とよりよく生きることができる。
発展期	5年 6年	各教科 総合的な学習の時間 特別活動 など					

「特別の教科　道徳」における教育実践研究

１　教科の研究テーマ

子どものための哲学 philosophy for children の哲学対話

２　教科における教育実践研究の視点

⑴ 育てたい生徒像

① 物事を多面的・多角的に考え，善・悪の判断ができる生徒
② 様々な問題に対して，道義的責任を持って行動することができる生徒
③ 道徳的価値の理解を基に，様々な考え方，捉え方があることを受け容れ，他者とよりよく生きようとする生徒

中学校では令和元年度より「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教科化された。また，高等学校の次期学習指導要領において，「道徳教育や体験活動，多様な表現や鑑賞の活動等を通して，豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること」とあるように，中等教育において道徳の重要性は高まっている。道徳教育は，学校のあらゆる教育活動を通じて行われるものであるが，その要となる「特別の教科　道徳」の充実は急務といえる。

「困っている人がいたら助けなさい」「きまりを守りなさい」「いじめをしてはいけません」等は，中学生，高校生にもなると，誰もがわかっていることである。しかし，人の行動はこの通りにいかないことも多い。良いことだとわかっていても，行わないことがあり，悪いことだとわかっていても，行ってしまうことがある。つまり，道徳的判断力，心情，実践意欲が道徳的態度に結びつくとは限らないのである。

本校の道徳では，道徳的諸価値についての理解を基に，対話を通して自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考えることで，道徳的判断力，心情，実践意欲を高めていくと共に，読み物教材などを活用して，他者とよりよく生きるための道徳的態度を育むことを目指している。

⑵ 教科におけるグローバルキャリア人の構成要素

A　基礎力…道徳的価値を理解することができる力・周りの人たちの話をしっかり聞き，意見を述べたり，議論を進めたりすることができる力
B　思考力…様々な考え方，捉え方があることを受け容れ，考えを深めることができる力・問い返しを繰り返すことで，考えを深めることができる力
C　実践力…他者とよりよく生きることができる力

人の行いを１つとっても，その心の部分には様々な思いが込められている。その思いに気付くことは，他者との良好な関係を構築する上で基本的なことと考えている。

「特別の教科　道徳」が考えるグローバルキャリア人の具体像を踏まえ，グローバルキャリア人の教科における構成要素を４要素とした。

⑶ 教科の各期目標

基礎期（１・２年次）

・道徳的諸価値についての理解を基に，道徳的判断ができる。
・道徳的な問題に対して，道徳的心情，実践意欲を高めることができる。

充実期（３年次）

・道徳的諸価値についての理解を基に，　物事を多面的・多角的に考え，道徳的判断ができる。
・道徳的な問題に対して，道徳的心情，実践意欲を高め，道徳的態度へとつなげることができる。

充実期（４年次）発展期（５・６年次）

・基礎期(１・２年次)，充実期(３年次)の学習を様々な場面に活用することができる。

⑷　目標達成のための学習内容と方法

キーワード：　子どものための哲学 philosophy for children　シティズンシップ教育

道徳の時間の学習内容については，読み物教材を中心に教科書教材などから22の内容項目を偏りのないよう取り扱うようにしている。

子どものための哲学(Philosophy for Children：p4c)は，アメリカの哲学者マシュー・リップマンが教室で思考を実践することを目指して開発した教育プログラムである。このプログラムでは①教材・生活の中から自分たちで問いを立てて，②クラスのメンバー全員(教師を含む)で輪になって座り，③持っている人が話すというルールのコミュニティボールを用いて，④お互いへの敬意がある限りで問いについてどんな発言・質問もできるというセーフティを守って議論を進めていく。これは協同で思考することを目指すプログラムであり，生徒たちを発言へと強制することを求めているわけでもなければ，発言することのみを評価するものでもない。生徒または教師の問い返しによって議論を深め，道徳的価値にせまっていく。本校では必要に応じてその一部を取り出した実践で行っている。

⑸　目標達成のための評価方法例

〔評価のポイント〕

・年間を通して，学習のプロセスを評価する。
・年間で学習したワークシートを確認し，総じて〔評価文言例〕のどれに分類されるかを判断する。
・評価文言は簡素にし，評価する作業を通して子供たちについて様々な発見があるようにする。

〔評価文言例〕

道徳的価値について，他の人の意見をよく聞き，新しい意見を多面的・多角的に考えることができた。
道徳的価値について，自分の意見を多面的・多角的に考えることができた。
道徳的価値について，考えることができた。

「特別の教科　道徳」の評価例

問い：混んでいるときに優先座席が空いていたら座っていいのか？（遵法精神・公徳心）

対話前の考え	対話後の考え
座っても良いと思う。しかし，座	あまり座らない方が良いと思った。
るなら条件がある。	対話前は，気配りをしていればいい
①優先座席を使うには，その席を	とだけ思っていた。しかし，自分の分か
必要とする人が現れるかどう	らない，見えない所にその席を必要と
気配りとその人が現れたら，	している人がいるかもしれないから，
席をゆずる責任，義務が自分自身がその席を必要としていな	
いると思う。	限りあまり座らないほうが良いと
	思った。

対話の中での他の人の意見を聞いて自分の配慮の限界に気づいたことから「道徳的価値について，他の人の意見をよく聞き，新しい意見を多面的・多角的に考えることができた」と評価できる

問いについての活動前の考え	問いについての活動後の考え
どうしても座りたいんだったら座れば良いと思う。しんどかったり体調が悪かったりする時に座ってこその優先座席だと思う。そこまで座りたいと思っていないのならば、本当に必要としている人が座れるように空けておくべきだと思う。	優先座席そのものをなくしても良いと思う。こういう席があるから差別的に障害者を見てしまったり、障害者や妊婦などが不快な思いをしてしまうんだと思う。優先座席をなくせば、日本人ももっと良心が発生えると思った。

対話の中での「そもそも」優先座席をなくすべきという論点から差別の問題に気づいたことから「道徳的価値について，他の人の意見をよく聞き，新しい意見を多面的・多角的に考えることができた」と評価できる

問い：ネット上に人の悪口を書いて，いいことはあるのか？（友情・信頼）

問いについての活動前の考え	問いについての活動後の考え
良いことなど一つもないと思う。逆に様々な人から非難されて良く思う人はいないと思う。また、人の悪口をネットに書くことは許されないと思う。	良いことはなく、悪口を書いて非難され、書いた本人も罪悪感にかられると思う。悪口をネットに書くぐらいなら直接、本人に言うほうがよっぽど良いと思う。

対話の中での他の人からの影響よりも自分自身の考えを深めていることから「道徳的価値について，自分の意見を多面的・多角的に考えることができた」と評価できる

⑹　教科実践研究の成果と課題

振り返りシートから思考の深まりが十分みられたことや，行為の理由を問い続けることで発言や振り返りシートの記述から道徳的心情にせまることができ，道徳的価値を理解する一助となったことは成果として挙げられる。p4c の手法に関しては，可能性に手応えを感じているが，どの教員でも行えるようにするということに関しては手探りの状態である。

第２年１組　特別の教科道徳学習指導計画
子どものための哲学　philosophy for children

指導者　中川　雅道

日　時　2020 年 12 月 7 日(月)　10:55～11:45

場　所　２年１組教室

１　単元の設定にあたって

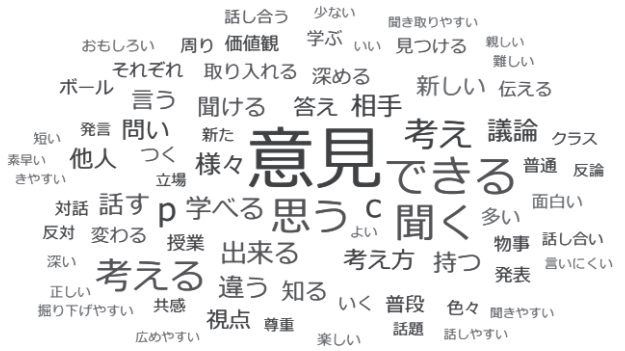
⑴　生徒について（「意識調査をもとに」）

本実践を行う学級は，41名。11回生は，道徳，国語の時間などに１年生の時から相当数のp4cの対話を経験している。今回は「p4cだからこそ学べることって何ですか」という自由記述アンケートを行った。その結果から，生徒たちがp4cをどのように捉えているかを見てみよう。「聞く」(60)「聞ける」(11)と「話す」(14)「言う」(13)から分かるように，自分の考えを言うというよりも，周りの人たちから普段は聞けないような意見を聞く機会だととらえていることがわかる。共感的に聞くというよりも，新しい(11)面白い(5)意見を考え，学ぶ機会になっている。考える(47)という言葉の使われ方から，理由を考える，普段は考えないことを考える，色々な視点から考える，反例を考える，みんなと一緒に考える機会になっていることがわかる。肯定的に捉えられている側面をさらに深めることを目指して，今回のp4cを行う。

＜アンケート結果＞（2020 年９月１日／対象：２年生全クラス／生徒数：122 人　未回答３人）

p4cだからこそ学べることって何ですか？という質問を行い，
結果をテキストマイニングにかけた。以下が頻出語。

抽出語（出現回数）
意見（167）　人（85）　自分（80）　できる（64）
聞く（60）　思う（54）　ない（48）　考える（47）
考え（45）　P4C（35）　ある（23）　なる（22）
他（20）　相手（19）　様々（18）　学べる（17）
違う（16）議論（16）　考え方（16）　いう（15）
出来る（15）　他人（15）　問い（15）　力（14）
話す（14）　言う（13）　視点（13）　答え（13）
持つ（12）　知る（12）　話（12）　新しい（11）
普段（11）聞ける（11）



テキストマイニング　頻出語数結果

⑵　学習方法について（「考え，議論する道徳」を実践するために）

「子どものための哲学」（philosophy for children，p4c）の手法を取り入れて，生徒たちが自ら議論する授業を行う。ファシリテータとなる授業者も含め，全員が輪の形になって座り，コミュニティボールとよばれる毛糸で作ったボールを用いて対話を行う。ボールを持っている人が話し，残りの人たちは話している人を聞く。発言が終わったら，次に話したい人は手を挙げ，誰も手を挙げていないときには，誰かにボールを渡す。渡された後に，発言したくなければパスすることもできる。授業内で発言しない人もいるが，ワークシートから考えを知ることができ，ワークシートの考えの推移は評価の材料にすることができる。

⑶　教材について

道徳の内容項目を身近なこととして考えてもらうために，自分たちで問いを立てて議論することを重視した。学ぶ楽しみを重視し，道徳の価値として提示されている内容を生徒たちにそのまま提示し，個人で問いを立てる。その後，小集団学習を行い，最もよい問いを小集団に一つ選び，クラス全体に提示した後に，多数決で問いを一つ選ぶ。対話の前には，問いを立てた人が自分の問いの意味の説明を行うことで，より身近な問いとして探求することができる。

２　単元の構成

⑴　単元の学習目標

道徳的価値に関する問いについて議論を行う。この活動を通して様々な道徳的価値についての深い理解に達するとともに，道徳的判断力を養うこと，様々な葛藤を負いながらも道徳的価値に基づく行動を実践しようとする態度を培うことを目的とする。

⑵　単元の位置

生活の中で経験した様々な道徳的価値について振り返る機会となる。

⑶　単元のねらい

①様々な道徳的価値について批判的に考察することで，互いに関連付け，自らの行動に反映させることができる。

②資質・能力の育成の重点

	A　基礎力（道具や身体を使う）		B　思考力（深く考える）	C　実践力（未来を創る）
	知識･理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
	Ⅰ　知識・概念	Ⅱ　技能	Ⅲ　論理的・批判的・創造的思考	Ⅳ　自立・協同・創造の力
充実期	道徳的価値の理解。	周りの人たちの話をふまえながら自分の意見を述べたり，議論をしたりすることができる。	周りの人たちの意見をよく聞いた上で，様々な考え方，捉え方を受け容れたり，反論したりすることができる。	問い返しをくりかえすことで，考えを深めることができる。 反省的な視点で自分の行いを見つめ，行動することができる。

⑷　単元の展開と評価（全 11 時間）

時	各時の主題	各時の問いと主な活動	各時のねらい(評価の場面)	評価の観点
	事前調査	1　p4cで何を学べるかの意識調査 2　p4cの中での自己評価		
第１次 1時	節度・節制	「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること」について問いを立てる。参考資料は内閣府の新しい生活様式。	内容項目を読み，理解しながら，自らのこととして考えるための問いを立てる。 複数の問いの中から議論する問いを選ぶ。	Ⅰ Ⅲ
2時	サイレントダイアローグ	前時に立てた問いについてサイレントダイアローグを行う。問いは「新しい生活様式をすべて守った学校はどんなもの？」「自粛中はなぜストレスがたまったのか？」など。	サイレントダイアローグのワークシートを回して，紙面で討論を行う（コロナウイルスによる代替措置）。道徳的価値の理解を深める。	Ⅱ Ⅳ
第2次 1時	公正・公平・社会正義	「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」について問いを立てる。参考資料は自粛警察についての新聞記事。	内容項目を読み，理解しながら，自らのこととして考えるための問いを立てる。 複数の問いの中から議論する問いを選ぶ。	Ⅰ Ⅲ
2時	サイレント・ダイアローグ	前時に立てた問いについてサイレントダイアローグを行う。問いは「自粛警察が許される限度はどのくらい？」「ネット上での罵倒をどうすればいいのか？」など。	サイレントダイアローグのワークシートを回して，紙面で討論を行う（コロナウイルスによる代替措置）。道徳的価値の理解を深める。	Ⅱ Ⅳ
第3次 1時	いじめ・公正・公平・社会正義	「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること」について問いを立てる。参考資料は東京書籍『新しい道	内容項目を読み，理解しながら，自らのこととして考えるための問いを立てる。 複数の問いの中から議論す	Ⅰ Ⅲ

		徳２』の「いじめのない世界へ（１）（２）」。	る問いを選ぶ。	
2時	サイレント・ダイアローグ	前時に立てた問いについてサイレントダイアローグを行う。問いは「いじめにおわりはあるのか？」「周りで見ている人は加害者に含まれるのか？」など。	サイレントダイアローグのワークシートを回して，紙面で討論を行う（コロナウイルスによる代替措置）。道徳的価値の理解を深める。	Ⅱ Ⅳ
第4次 1時	友情・信頼	「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること」について問いを立てる。参考資料は童心社『対話ではじめるこどもの哲学　道徳ってなに？２』「友達って多いほうがいいの？」。	内容項目を読み，理解しながら，自らのこととして考えるための問いを立てる。 複数の問いの中から議論する問いを選ぶ。	Ⅰ Ⅲ
2時	p4c	前時に立てた問いについて議論する。問いは「愛着があるものは友達か？」「友達とはどんな人のことか？」など。	問いについて話し合う。 道徳的価値の理解を深める。	Ⅱ Ⅳ
第5次 1時	遵法精神・公徳心	「法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること」について問いを立てることができる。参考資料は、教科書教材「宝塚方面行き――西宮北口駅」	内容項目を読み，理解しながら，自らのこととして考えるための問いを立てる。 複数の問いの中から議論する問いを選ぶ。	Ⅰ Ⅲ
2時	p4c	「混んでいるときに優先座席が空いていたら座ってもいいのか？」「迷惑なことをしているひとにマナーをやぶって怒ってもいいのか？」など	問いについて話し合う。 道徳的価値の理解を深める。	Ⅱ Ⅳ
第6次 1時 **(本時)**	**勤労についての p4c**	**教科書教材「我，ここに生きる」を読み，「人は何のために働くのだろう」という問いについて考えることができる。**	**道徳的価値を多面的・批判的に考え，自分自身と対比させて反省的に自身の生き方を捉え直すことができる。**	Ⅱ Ⅳ
	事後評価	ワークシートの評価		

⑸　評価の観点

Ⅰ　知識・概念　　Ⅱ　技能　　Ⅲ　論理的・批判的・創造的思考　　Ⅳ　自立・協同・創造の力

３　本時の学習（６次１時）

⑴　本時の 主 題　　勤労についての p4c

⑵　本時のねらい

①道徳的価値を多面的・批判的に考え，自分自身と対比させて反省的に自身の生き方を捉え直すことができる。

②資質・能力育成の重点

（学習指導要領の４観点と本校研究主題の資質・能力（３能力４要素）との関係を示す。）

A　基礎力（道具や身体を使う）		**B　思考力（深く考える）**	**C　実践力（未来を創る）**
知識･理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
Ⅰ　知識・概念	**Ⅱ　技能**	**Ⅲ　論理的・批判的・創造的思考**	**Ⅳ　自立・協同・創造の力**
様々な道徳的価値を踏まえて多面的・批判的に考え，対話の中で反省的に自身の生き方を捉え直すことができる。			

⑶　教材について・方法について

本時においてもこれまでと同様に，対話を主体として授業を展開する。

⑷　本時の展開

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
0	導入 「我，ここに生きる」（東京書籍『新しい道徳２年』）を読む	○輪になって着席しておく。 ○「人は何のために働くのだろうか」という問いを板書しておく。 ○問いを確認し，「我，　ここに生きる」を読む	○問いを意識しながら読むように促す
15	本質的な問いについての議論	○問いについて議論する。 ○議論の流れに応じて，進行する。 ○状況に応じて「自分のため，自分以外の人のために働くという考えはどこから来ているのですか」「お金のために働くのはマイナスのイメージですか」「仕事をするうちに人の考えが変わることはないのでしょうか」といった質問をする。	○ファシリテータとして振る舞う。 ○理由（なぜ～ですか？）・前提（その考えの前提はなんですか？）・推論（ということは，どうなりますか？）・例（例はありますか？）・反例（反例はありますか？）・真理（～ということは本当ですか？）など論理的な展開に留意して質問を考える。
45 50	まとめ	○本時のまとめをワークシートに記入する。	（評価）：評価資料（ワークシート） 道徳的価値を多面的・批判的に考え，自分自身と対比させて反省的に自身の生き方を捉え直すことができる。（Ⅳ）

⑸　評価の目安

Ⅳ　自立・協同・創造の力：道徳的価値を多面的・批判的に考え，自分自身と対比させて反省的に自身の生き方を捉え直すことができたか。

【参考資料】

p4cみやぎ出版企画委員会『子どもたちの未来を拓く探究の対話「p4c」』東京書籍，2017年。
河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せる　こどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社，2018。
梶谷 真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎，2018年。
土屋 陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春出版社，2019年。
こども哲学おとな哲学アーダコーダ『こども哲学ハンドブック 自由に考え，自由に話す場のつくり方』アルパカ，2019年。
宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー『子どもの問いでつくる道徳科実践事例集』東京書籍，2019年
お茶の水女子大学附属小学校『新教科「てつがく」の挑戦：“考え議論する”道徳教育への提言』東洋館出版社，2019年。

【資料】公開授業で使用するもの（ワークシート，資料，教科書など）

髙橋隆子・砂金みどり「探究の対話（p4c）を始めよう～対話の力と探究心を育もう～」東書教育シリーズ　小・中学校道徳科教授用資料。
「我，ここに生きる」（東京書籍『新しい道徳２年』）

４　研究授業の記録及び分析

⑴　学習活動

2020年12月4日，12月7日に，1〜3年生9クラスの道徳の時間を設定した．各HRで担任がファシリテータとしてp4cを行なった（髙橋隆子・砂金みどり「探究の対話（p4c）を始めよう〜対話の力と探究心を育もう〜」東書教育シリーズ　小・中学校道徳科教授用資料，に準拠）．1年生は「思いやりの日々」（新しい道徳 1年），2年生は「我，ここに生きる」（新しい道徳 2年），3年生は「ハッチを開けて，知らない世界へ」（新しい道徳 3年）を教材として用いた（いずれも東京書籍の教科書）．指導助言の河野哲也先生から次のような肯定的なコメントをいただいた．「各先生は非常にp4cの趣旨と基本的なスタンスを理解されていると思いました．知的安全性が十分に保たれていた．生徒の発言も率直で，優れていた．考える時間を十分にとっていた」．河野先生から指摘いただいた課題については，次の評価の観点で述べてみよう．

⑵　学習評価

「第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」（中学校指導要領）．道徳の授業の評価を考える際には，常にこの目標に立ち返る必要がある．評価について次のように述べられている．「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。ただし，数値などによる評価は行わないものとする」（中学校指導要領）．計画的に行われた授業の中で，道徳性に係る成長の様子を把握することが評価なのである．それでは，p4c の授業で道徳性に係る成長はどの場面で見えるのだろうか．そのことをまとめてみたい．

２年生で実際に行われた授業，「我，ここに生きる」を読んだ後に「人は何のために働くのだろう」という問いで行なった p4c の授業映像から，授業の文字起こしを行い，p4c の授業の中で一体どんなことが起こり，どのような意味で道徳性が育まれているのかを考察してみよう．

⑶　授業分析

授業者（中川雅道教諭）のp4cの中での振る舞いについて，分析者（上村幸教諭）が印象的だと感じた場面とその意味づけを列挙していく．授業者である中川自身が学校の教職員として働きながら博士論文を執筆し，現在も学校で働いていることと，この対話の内容は無関係ではないだろう．生徒たちも，折に触れて話す雑談の中から，そのことを知っていたのだから．

①同じような意見が並んでいる時には，前者の意見を受けて話すので，自己肯定感が生まれている

A：「社会の歯車の一部になる」っていることを感じることで自分が生きている実感を得る。無職より「生きている」って感じを得られるから，そのために働いているのだと思いました。（右隣の男子生徒に渡す）

B：まあお金を稼ぐことっていうのは，楽しんでお金を稼げるっていうことがあると思います。

C：生きていくためにはお金がいるので，楽しんで働いている人っていうのは，結局お金に困っていなくても働くかどうかは微妙だと思うので，結局はお金のためだと思います。

②教材を根拠にすることで自分の気持ちを後押ししている

D：僕もお金のためっていうのもあると思うんですけど，この話の人はなんかお金よりも仕事のやりがいみたいなもんを選んでいるから，お金だけがというものじゃないんだと思いました。

③それまでに発言した人を前提に発言，今回の教材は「勤労」が内容項目だが「思いやり・感謝」に

まで言及している

G：私もいろいろな意味があると思っていて，まず，生きていくためにはお金が必要で，誰かからもらうんじゃない限り，お金はどっかから湧いて出てくるわけじゃないから，一定，生きていくためにお金が必要やから働いているという理由が大きいと思うんですけど，ただ，この話でいう，札幌に行くか，村にとどまるかっていうのは，（医師としての報酬があり、）とりあえず生きていく上でのお金は確保されている上で，それ以上を目指すか，そこの人とのつながりを大切にするか，その人がとどまる上でのメリットをとるかどうか，例えば，〜君は趣味とかに時間を割きたいから札幌に戻るけど，この人は人のつながりがうれしいということでここに残ると思ったけど，それを選ぶのは人によると思っていて，さっき，「社会の歯車」っていうのがあったけど私もそれをすごく思っていて，無職で事情があれば仕方ないけど，働かずに何も生産していない人は，何か働いている人は，例えば，物を育てている農家さんとかやったら，物を物理的に生産しているし，生産して販売してっていう，物やったり経済だったりいろいろなものが回っていくことの歯車として，家の中で引きこもっている，それでその中で何かパソコンで作っているとかやったらあれやけど，何もせずにただゲームしてるだけやったら，何もしなくてただ消費しているだけ，消費者側だけの人間で，それと，生産しながら社会で生きていくというのは大きく違うと思っていて，まだ学生である私たちはどっちかというと消費者側寄りだと思うんですけど，生産する側が一定数いないと社会が回っていかないし，そうあることが生きがいの人がいっぱいいるから，お金っていうのがすごい面ではあると思うんですけど，そういう生きがいとか，社会の歯車を回す役目としての意味は大きいじゃないかと思います。

④授業者も、生徒と同じ時間を共有し、簡単には答えの出ない問いについて思いをめぐらせてきたことが分かる発言を行っている

J：質問なんですけど，中川先生(授業者)は何のために働いていますか。

授業者：エグい質問しますね，いきなり。いや，考えてたんですけど，どっちでしょうねえ。皆さんは多分お金のためかそれ以外のためかみたいな分け方にしているんだと思いますけど，ちょっと今すぐ明確には答えられないですけど，「あなたは何のために働いていますか」って，まずはお金のためかなって思いますね。でも，お金をもらうって言うのは，そのお金に換算されるっていう，自分が働いているのが「価値あるよ」って認められている感じがするんですね，お金もらっていたら。だから，お金をもらうと同時に，何人かの人が言ったのと同じで，社会から認められている感じなのかなっという感じがしますけどって言ってみたんですけど，全然自分でも今納得できていませんね。もうちょっと考えさせてほしいかなと思います。皆さんはどうですか。Jさん納得しました？全く？質問変えてみます？（Jさんにコミュニティーボールを返却し，）納得しました？

⑤授業者も葛藤しつつ，自分なりの考えを述べている

授業者：さっきの「あんたは何で働いているんですか」を考えていたんですけど，お金のためじゃないかもしれないっていうことを，皆さんの意見を聞いていて思ってきたんですね。やりがいとかの話を聞いていて，僕，多分，この職場を選んだとき，「p4cできそうやん」っていう，僕の中の価値を考えたときに，お金よりもp4cが上に来ている。この学校やったらp4cできる。実は元々教員になるつもりはあんまりなかったので，学校の先生になりたいと別に思ってないですし，これ何なんでしょうかね，やりがいなんですかね。p4cができると思って今やっている。お金は偶然さっき言ったように，好きなことやってお金をつけてもらっているので，ラッキーな感覚ですね。余計に混乱させることを言ってしまったように思いますが，そんなことを思っています。どうでしょうか。質問でもいいですけど。途中の，「お金が貯まったら仕事辞めるか問題」っていうのがあるじゃないですか。これは皆さんどう思いますか。僕はp4cやりたいから仕事やってるので，お金が貯まってもp4cやってるんでしょうねって思いますね。

⑥奥さんがいい人という視点に議論を向かわせるための発言

S：先生とかって家族をお持ちじゃないですか。家庭のある人は家族のために働くっていうのがあって，（中川先生には）あるのかなあ？って思いました。

（授業者にコミュニティーボールを戻す）

授業者：今のはなんですか，「お前，p4cとか言ってないで家族のために働け」っていう。（笑いが起こる）ちょっと思うときありますよ。ウチの場合，奥さんも働いていて，奥さんの方がウチは優秀なんで，今のところ僕はあんまり「家族のために」って言えるほど優秀な成果を上げていないと思います。この（教科書の）話の場合，奥さんがすごくいい人っぽいじゃないですか。どうでしょうか。

⑦教材に含まれるジェンダー観の歪みに気づく

X：私はお金が貯まっても，働き続けると思います。仕事をしてなかったら自分が何のために生きているのだろうと悲しくなってくると思うので働くと思います。あと，この話の中の奥さんは，なんでここまで夫に尽くしているのか分からないです。

つまり，p4cの中で道徳性が発揮される場面は

①　発言者が前の発言者に言及する場面（ケア的）
②　理由や根拠をもとにして自分の考えを語る場面（批判的）
③　議論されている内容について別の可能性を語る場面（創造的）
④　授業者も対等な参加者として語る場面（探究的）
⑤　授業者も自分の考えを変えていく場面（探究的）
⑥　授業者自身が自分自身を教材として，新しい観点に気づかせようとする（創造的）
⑦　理由や根拠をもとにして不正を暴く場面（批判的）

というように析出できるかもしれない．p4cの創始者リップマンは思考の様式をケア的，批判的，創造的と呼び，複層的な思考のあり方を模索した（マシュー・リップマン『探求の共同体　―考えるための教室―』玉川大学出版部，2014年）．しかし，今回の授業ではそれだけではなく，授業者が積極的な働きをしている可能性が出てきた．探究的とラベリングした行動が，実はp4cの進行役として，重要な側面なのかもしれない．

⑷　成果と課題

このようなプロセスが生じるためにp4cは道徳の授業として成立し，しかも子どもたちの道徳性の育成に役立っているのである．今回の授業実践ではそこまでのことを明らかにすることができた．しかし，そのことと子どもたち自身がp4cの中で起きたことを反省的に捉えることができているのかどうかは別である．今後，子どもたちには更なるアンケート調査を実施するなど，p4cの中で起きる道徳性が反省的に捉えられているのかを研究する必要がある．

本研究は，科学研究費補助金研究基盤（A）「生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築」（研究代表者：河野哲也）の一環として行われたものである．また，本紀要の内容は，日本哲学会哲学教育ワーキンググループで検討を行い，2021年5月14日（金）に開催される日本哲学会哲学教育ワークショップで本校教諭上村幸，中川雅道が登壇し，発表する予定である．立教大学教授，河野哲也先生には指導助言を快く引き受けていただき，様々な観点からご指導いただいた．2021年2月3日には本校，道徳教育研修会に登壇いただき，日本学術会議の報告の内容から，国際的な動向，さらには日本の教育の本質に迫る話題まで，洞察に富んだ講演を行なっていただいた．質疑も活発になされ，大変有意義な研修になり，研修後にも多くの本校教員から肯定的な反応をいただいた．この場を借りて，厚く御礼申し上げたい．